

## 序文<sup>‡</sup>

筑波大学 応用理工学類 物質工学系

小林 正美<sup>\*</sup>

記念すべき「第1回光合成学会公開シンポジウム」が2010年6月4日～5日に東京大学駒場キャンパスで開催されました。シンポジウムの統一テーマは「光合成研究のダイナミックス」で、前半（4日）と後半（5日）の2つのサブセッションに分け、それぞれ小林と西田先生（埼玉大）が担当しました。

小林が世話人を担当しましたセッション1「光エネルギーの新しい利用法と光合成研究の温故知新」では、先ず「光エネルギーの新しい利用法」として、化学の観点から瀬川浩司先生（東京大学）に「植物の光合成に学ぶ色素増感太陽電池の研究開発」について、続いて村田 滋先生に「化学の視点からみた光合成 —人工光合成研究の現状と将来—」についてご講演していただきました。

続いて、「光合成研究の温故知新」として、檜山哲夫先生から「光化学系 I —P700を中心に」なる表題で、そして最後に佐藤公行先生から「光化学系 II 反応中心同定への途（回顧）」なる表題でお話を伺いました。

本特集は、このセッション1での講演内容をできるだけ分かり易く説明していただくことを目的としています。瀬川先生には、昨年の「光合成研究」12月号で既に執筆していただいておりますので、今回は村田先生、檜山先生と佐藤先生の3名の演者に執筆をお願いしました。

一読していただければお分かりになると思いますが、従来の解説記事とはかなり感触が異なります。論文、著書や学会発表からでは知ることができない、貴重な体験談が豊富に盛り込まれているからでしょう。そのため、特にこれから研究を進めていく若い研究者にとって、よい指針になるのではないのでしょうか。また各研究の歴史的背景が簡潔に分かりやすく記述されていますので、色々な面で役立つのではないかと期待しています。

「分かりやすく」しかし「詳細に」という編者の無理難題に応えてくださった村田先生、檜山先生および佐藤先生に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

なお、西田先生が担当なさいましたセッション2「最新の光合成研究と未来」の解説特集は、来年の4月号に掲載される予定です。ご期待ください。

---

<sup>‡</sup> 解説特集「光エネルギーの新しい利用法と光合成研究の温故知新」

<sup>\*</sup> 連絡先 E-mail: masami@ims.tsukuba.ac.jp